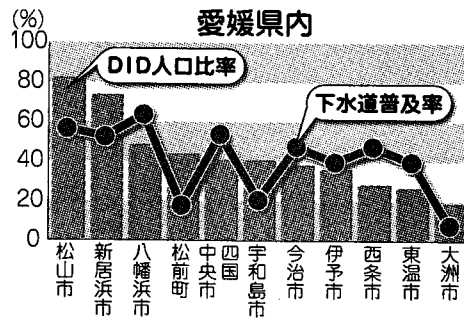
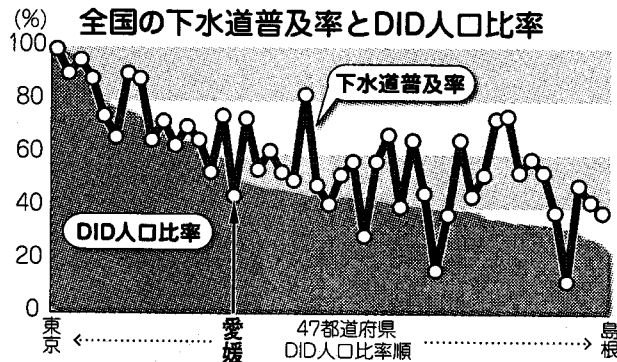


重要な社会インフラのひとつである下水道の普及率は自治体によりさまざまです。多額の費用が必要なため住民の密集度が高い区域から優先して整備するためでしょう。そこで下水道普及率と密集度の関係を示します。密集度として人口集中地区（DID）の人口比率を使い、都道府県別にグラフ化したものが上図です。下水道普及率は、密集度50%を超えるところでは同じような水準、50%を切

## 下水道普及率



ると経済合理性より整備の必要性が優先されるためか、少し高めにあることが読み取れます。愛媛県の下水道普及率は44%で四国4県の中では一番高く、密集度(51%)より少し低くなっています。

一方、県内の数値を示した下図では、松山市や新居浜市は普及率がまだまだ低く、八幡浜市や四国中央市では逆に整備が進んでいます。社会インフラの下水道が、密集度並に整備されることを期待します。(日本政策投資銀行松山事務所長

・門松 功)

住民密集度より低い44%